

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組 1 〕 医師・歯科医師を対象とした事業
 (1) 横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成
 災害医療領域

整理番号	4
------	---

申請担当大学名 (連携大学名)	近畿大学 (京都大学、大阪市立大学、関西医科大学、旭川医科大学) 計 5 大学
事業名	災害医療のメディカルディレクター養成
事業責任者	救急医学講座 教授 平出 敦

事業の概要

我が国では災害医療に多角的な視点から対応できるメディカルディレクターの人材養成が特に不十分である。その結果、大災害時には被災地で地域全体の医療の流れを指揮する機能の担い手がおらず混乱が生ずる。嵐の後はその種類の災害に備えが集中するが、異なるタイプの災害には備えができていないという歴史を繰り返している。この事業では平時から救急医療に関する疫学的分析等を通じて、地域の特徴や問題点を明らかにして、種類の異なる災害に対して医療ニーズを把握して医療資源の配分や環境整備がマネージできる人材を継続的に養成するものである。同時に、それを支援する人材も合わせて養成する。災害医療の多様性を考慮して、このような人材開発を、異なる使命をもった大学や、国情の異なる複数の国の間で、共同で推進するものであり、プレホスピタルの臨床研究で連携が進んでいる各大学やアジア諸国とのリンクを生かして進めるものである。

推進委員会からの主なコメント : 優れた点等、 : 充実を要する点等

従来の災害医療における管理者研修の問題点を踏まえて、真の意味で国際的な視野で災害医療に対応できるメディカルディレクターを養成する実現性の高いプログラムである。
 アジア救急医学会と連携し、日本初の災害医療研修がアジアに展開するグローバル時代にふさわしいプログラムである。
 リーダーシップ等の指揮命令システムを果たす人材育成という観点が秀逸であり、国際的な視点も含まれた魅力的なプログラムである。
 5 大学病院による連携や、近隣諸国との連携が評価できる。
 災害メディカルディレクターを育成することは、この本事業の趣旨に合致している。
 基盤として、既存のアジア救急医療体制研究会が組織されており、それを利用できる点が優れている。
 国際展開を行う多職種融合災害医療コースにより人材育成を推進する点が特徴であるが、各国間における多職種のライセンスの範囲等を十分に精査する必要がある。また、アカデミックキャリアパスである大学院における位置付け、外国人研究者の養成なども展開に加えることが望ましい。
 プログラムの鍵となるのはリーダーシップ教育であることから、リーダーシップを教育できる専門的な指導者（医療界のみでなく他の広い領域からも含む）も参画できないか検討していただきたい。
 本事業の取組によって、国内で体系的な教育を履修した災害メディカルディレクターが多数輩出されることが望まれる。
 国際的なものを構築し、それを再び国内（地域）にフィードバックする計画と思うが、日本、と海外では、災害の種類、発生率、インフラの状況、行政対応システムも全く異なることから、多彩な災害ケースを履修できるよう、更なる充実が望まれる。

留意事項

[様式 A - 2] 教育プログラム・コースの概要について、修了要件の記載が不適切（単位数又は履修時間数の記載がない）であり、また、履修科目等も記載が不適切（各授業科目の単位数又は履修時間数の記載がない）であることから、履修者に分かりやすいように適切な修正を行うこと。更に、体系的な教育を展開するためには、履修時間が不足していると思われることから早急に見直しを行うこと。